



## CHAPTER 2

# Cisco Unified Presence のインストールと設定

Cisco Unified Presence インストール全体のプロセスには、サーバのタイプに応じて、サーバ 1 台あたり 45 分から 120 分を要します（インストール前後の作業を除く）。

Cisco Unified Presence は、サーバにプレインストールされている場合もあります。インストール中に、基本インストールまたは最新のサービス リリースへのアップグレードを実行できます。ソフトウェアのインストール開始後、次の表に示すオプションのいずれかを選択する必要があります。

インストール オプション	説明
インストール前	Cisco Unified Presence サーバにソフトウェアがプレインストールされている場合、インストール ディスクは不要です。インストール ルーチンは、基本インストールと同様に実行されます。ただしインストール ウィザードではインタラクティブに設定データの入力を求めるプロンプトが表示され、入力を処理するために設定ステップが一時停止します。
基本インストール	Cisco Unified Presence の基本インストールを表します。インストール ディスクからソフトウェアをインストールします。
追加リリース	システムを設定する前に、インストール ディスクに含まれているソフトウェアのバージョンを最新のサービス リリースにアップグレードできます。 <b>(注)</b> このアップグレード オプションの使用は推奨しません。このパッチ方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。アップグレードが必要な場合は、実行する前に「付録 B」を参照してください。



**(注)** インストール中に表示されるウィンドウの情報については、Space バーを押して [ヘルプ (Help)] を選択してください（可能な場合）。

- 「Cisco Unified Presence のインストールおよび設定方法」 (P.2)
- 「Cisco Unified Presence の無人インストール用応答ファイルの使用」 (P.7)
- 「既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード」 (P.9)

# Cisco Unified Presence のインストールおよび設定方法

- 「基本インストールの開始」(P.2)
- 「基本インストールの設定」(P.4)
- 「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定」(P.6)

## 基本インストールの開始

### 開始する前に

- 「インストール準備チェックリスト」に記載されている、Cisco Unified Presence インストールの前条件および必要な作業を完了してください。
- 新しいサーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている場合は、その後の製品リリースでサーバを再イメージ化する場合を除いて、DVD からインストールする必要はありません。既存のインストール データの入力に進んでください。

### 手順

- ステップ 1** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して DVD から起動します。
- ステップ 2** サーバのブート シーケンスの完了後、[Yes] を選択すると、メディア チェックが実行されます。
- ステップ 3** メディア チェックの完了後、[Media Check Result] ウィンドウで次のいずれかの操作を実行します。

メディア チェックの結果	操作	結果
成功	[OK] を選択して、インストールを続行します。	[OK] を選択すると、システム インストーラはさまざまなハードウェア チェックを実行し、システムが Cisco Unified Presence 用に正しく設定されているかを確認します。
失敗	次の操作を実行します。 <b>a.</b> もう一度 Cisco.com からダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。 <b>b.</b> [OK] を選択して、インストールを続行します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>– まず、インストール プロセスとしてドライバが正しいことを確認します。次の警告が表示されることがあります。  「Drivers not found, do you want to install manually?」  インストールを続行するには、[Yes] をクリックします。</li> <li>– 次に、サポートされるハードウェア プラットフォームが存在するかどうかを確認します。サーバがハードウェア要件を完全に満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。このインストールの失敗が誤りであると思われる場合はエラーをキャプチャし、シスコのサポートに報告してください。</li> </ul> <p>ハードウェア チェックが完了すると、[Product Deployment Selection] ウィンドウが表示されます。</p>

- ステップ 4** [OK] を選択して Cisco Unified Presence をインストールします。

次に、インストール プロセスは RAID 設定および BIOS 設定を確認します。インストール プロセス中にハードウェア設定を変更した場合、システムを再起動するようにプロンプトが表示されます。Vmware サーバに Cisco Unified Presence をインストールする場合、このチェックは行われません。

**ステップ 5** [Proceed with Install] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

- a. インストールを続行するには、[Yes] を選択します。
- b. インストールをキャンセルするには、[No] を選択します。



**注意**

インストールの続行に問題がないことを確認できるまでは、[Yes] を選択しないでください。[Proceed with Install] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、ハードドライブに存在するすべてのデータが上書きされ破棄されます。[Proceed with Install] ウィンドウに、ハードドライブにある Cisco Unified Presence ソフトウェアのバージョン（存在する場合）、および DVD のバージョンが表示されます。

**ステップ 6** [Platform Installation] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
この時点でソフトウェアのインストールと設定を行う	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Proceed] を選択します。</li> <li>b. <a href="#">ステップ 7</a>に進みます。</li> </ol>
ソフトウェアを今インストールし、設定は後で行う	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Skip] を選択します。</li> <li>b. 既存のインストールデータの入力に進んでください。システムが再起動します。</li> </ol>

**ステップ 7** [Apply Patch] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
最新リリースにアップグレードせずに、DVD のソフトウェアをインストールする	[No] を選択します。
ソフトウェアの最新リリースにアップグレードする	<ol style="list-style-type: none"> <li>a. [Yes] を選択します。</li> <li>b. 最新のソフトウェア リリースへのアップグレードに進みます。</li> </ol> <p>(注) このアップグレード オプションの使用は推奨しません。この方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。</p>

**ステップ 8** [Basic Install] ウィンドウで [Continue] を選択します。

**関連項目**

- [付録 A 「インストール準備チェックリスト」](#)
- [付録 A 「RAID および BIOS 設定」](#)
- [付録 B 「Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード」](#)

**次の手順**

- 「基本インストールの設定」(P.4) または
- 「既存インストールデータの Cisco Unified Presence へのアップロード」(P.9)

## 基本インストールの設定

### 開始する前に

- 前の項で説明したとおり、Cisco Unified Presence DVD をロードして基本インストールを開始します。
- Cisco Unified Presence の設定はインストール要件に固有で、一部のフィールドはオプションです。たとえば、固定 IP アドレス値と DNS を DHCP で設定できます。

### 手順

**ステップ 1** [Timezone Configuration] ウィンドウで、↑キーまたは↓キーを使用して次の手順に従います。

- サーバの適切な時間帯を選択します。
- [OK] を選択します。

**ステップ 2** [Auto Negotiation Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
自動ネゴシエーションを使用して、ネットワークインターフェイスカード (NIC) の速度およびデュプレックスを自動的に設定する	[Yes] を選択します。 <b>(注)</b> このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネットスイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。
自動ネゴシエーションを無効にする	<ol style="list-style-type: none"> <li>[No] を選択します。</li> <li>[Duplex Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>– 手動で、NIC の適切な速度およびデュプレックス設定を選択します。</li> <li>– [OK] を選択して続行します。</li> </ul> </li> </ol>

**ステップ 3** 最大転送単位 (MTU) の値を次のように設定します。

目的	操作
MTU サイズをデフォルトの OS 設定のままにして変更しない	[No] を選択します。
MTU サイズをデフォルトの OS 設定から変更する	[Yes] を選択します。 <b>(注)</b> Cisco Unified Presence のこの値を変更する場合は、Cisco Unified Communications Manager の値と同一にする必要があります。これらの値が同一でない場合は、インストールに失敗します。

**ステップ 4** [DHCP Configuration] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
DHCP を使用する	a. [Yes] を選択します。 b. <a href="#">ステップ 7</a> に進みます。
サーバに固定 IP アドレスを設定する	a. [No] を選択します。 b. <a href="#">ステップ 5</a> に進みます。

**ステップ 5** 固定 IP アドレス値の設定が必要な場合は、[Static Network Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. 固定ネットワーク設定値を入力します。
- b. [OK] を選択します。

**ステップ 6** DNS の設定が必要な場合は、[DNS Client Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. [Yes] を選択し、DNS クライアント情報を入力します。
- b. [OK] を選択します。

**ステップ 7** 管理者のログイン情報およびパスワード情報を入力します。

**ステップ 8** [Certificate Information] ウィンドウで、次の操作を実行します。

- a. 証明書署名要求情報を入力します。この情報には、社名、部署名、場所、都道府県、国が含まれます。
- b. [OK] を選択して続行します。

**ステップ 9** インストールするサーバに応じて、次のいずれかの手順を実行します。

サーバタイプ	操作
パブリッシャ サーバ：ネットワークに最初にインストールする Cisco Unified Presence サーバ	a. [Yes] を選択します。 b. 「 <a href="#">Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定</a> 」(P.6)に記載されている Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのシステム時刻の設定に進みます。
サブスクリバ サーバ：Cisco Unified Presence クラスタ内の後続サーバ	a. [No] を選択します。 b. Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでの後続の Cisco Unified Presence サーバの設定に進みます。

#### 関連項目

- 「[基本インストールの開始](#)」(P.2)
- [付録 A 「インストール準備チェックリスト](#)」

#### 次の手順

- 「[Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定](#)」(P.6) または
- 「[後続の Cisco Unified Presence サーバのインストールの完了](#)」(P.3)

## Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバでのシステム時刻の設定

### 開始する前に

- 前の項で示したとおり、基本インストールを開始して設定します。Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストール時には、ハードウェア クロックを使用して手動でシステム時刻を設定するか、または最大 5 つの外部 NTP アドレスを割り当てることができます。
- パブリッシャ サーバのシステム時刻を正確に設定するには、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャだけを NTP サーバとして設定することを推奨します。Cisco Unified Communications Manager パブリッシャがクラスタ内の唯一の NTP サーバとして設定されていると、クラスタ内の後続サーバは Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ サーバから時刻を取得します。
- Cisco Unified Communications Manager パブリッシャは NTP サーバのままにすることを強く推奨します。それ以外の NTP サーバを使用する場合は、そのサーバが Stratum 9 以上の Stratum 範囲 9 (最下層) ~ 1 (最上層) にあることを確認してください。

### 手順

**ステップ 1** [Network Time Protocol Client Configuration] ウィンドウで、次のように正しいシステム時刻を設定します。

設定の対象	操作
外部 NTP サーバ	<p><b>a.</b> [Yes] を選択します。</p> <p><b>b.</b> 1 台以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバプール名を入力します。</p> <p>(注) ネットワークに DNS が存在しない場合は、ホスト名を IP アドレスに自動的に解決することができないため、IP アドレスを入力する必要があります。</p> <p><b>c.</b> インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。</p> <p>(注) 最大 5 台の NTP サーバを設定できます。3 台以上使用することを推奨します。システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェア クロックの時刻を設定します。[Test] ボタンが表示されている場合は、[Test] をクリックして NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。</p>
システム時刻 (手動)	<p><b>a.</b> [No] を選択します。</p> <p><b>b.</b> 適切な日時を入力して、ハードウェア クロックを設定します。</p> <p><b>c.</b> インストールを続行するには、[OK] を選択します。</p>

**ステップ 2** [Security Password] ウィンドウにセキュリティ パスワードを入力します。

- ステップ 3** SMTP ホストを設定する場合は、次の操作を実行します。
- [Yes] を選択します。
  - SMTP の場所を入力します。
- ステップ 4** [Application User Configuration] ウィンドウで、次の操作を実行します。
- アプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。
  - [OK] を選択します。
- ステップ 5** [Platform Configuration Confirmation] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。
- [OK] を選択して、ソフトウェアのインストールを続行します。[OK] を選択すると、プラットフォームの設定を変更できなくなります。
  - 設定を変更するには、[Back] を選択します。
- ステップ 6** インストール処理が完了すると、管理者のユーザ ID とパスワードを使用してログインするようにプロンプトが表示されます。

#### トラブルシューティングのヒント

- セキュリティパスワードは、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャのパスワードと同一にする必要があります。Cisco Unified Presence の管理に初めてログインしたときに、セキュリティパスワードを変更できます。
- 一部のオペレーティングシステム機能を使用するには SMTP サーバの設定が必要です。SMTP サーバは、Cisco Unified Operating System のインターフェイスまたは CLI を使用して、後で設定することもできます。

#### 関連項目

- 付録 A 「インストール準備チェックリスト」

#### 次の手順

「Cisco Unified Presence パブリッシャ サーバのインストールの完了」(P.1)

## Cisco Unified Presence の無人インストール用応答ファイルの使用

Cisco Unified Presence は、インストール プロセス中に定義済みの設定値を読み取る XML 応答ファイルを使用して、無人インストールを実行できます。

Cisco Unified Communications Answer File Generator は、Cisco Unified Presence の無人インストール用の応答ファイルを生成する Web アプリケーションです。個々の応答ファイルは、インストール プロセス中に、Cisco Unified Presence の DVD に付属の USB キーまたはフロッピー ディスクにコピーされます。

応答ファイルは Cisco Unified Presence のフレッシュ インストールだけに使用可能で、アップグレードには使用できません。Cisco Unified Communications Answer File Generator には、次の URL からアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/web/cuc\\_afg/index.html](http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html)

この Web アプリケーションでは、次の機能がサポートされています。

- パブリッシャ サーバとすべての後続サーバにおける無人インストール用応答ファイルの同時生成と保存
- データ エントリの構文的な検証
- Internet Explorer バージョン 6.0 以降および Mozilla バージョン 1.5 以降のサポート
- オンライン ヘルプおよびマニュアルの表示

USB キーを Cisco Unified Presence の無人インストールの実行に使用する場合は、必要に応じて、Windows XP のディスクの管理ユーティリティを使用して USB キーを FAT32 ファイル システムに再フォーマットします。USB キーの記憶容量が大きく（たとえば 1 GB）、FAT ファイル システムでフォーマットされている場合は、再フォーマットが必要です。

### 開始する前に

- この手順を実行するには、管理者または管理者グループのメンバーになることが必要になる場合があります。
- DHCP クライアントがパブリッシャ サーバで使用されていて、後続サーバの応答ファイルも生成されている場合、パブリッシャ サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** Windows XP コンピュータの USB スロットに USB キーを挿入します。
- ステップ 2** 次の操作を実行します。
- [ スタート (Start) ] > [ コントロール パネル (Control Panel) ] > [ 管理ツール (Administrative Tools) ] の順に選択します。
  - [ コンピュータの管理 (Computer Management) ] をダブルクリックします。
- ステップ 3** 次の操作を実行します。
- [ 記憶域 (Storage) ] ツリーを展開します。
  - [ ディスクの管理 (Disk Management) ] を選択します。
- ステップ 4** [ リムーバブル ディスク (Removable Disk) ] アイコンを右クリックします。
- ステップ 5** [ フォーマット (Format) ] を選択します。
- ステップ 6** このパーティションをフォーマットするかどうかの確認を求められたら、[ はい (Yes) ] をクリックします。
- ステップ 7** 次の操作を実行します。
- [ ファイル システム (File System) ] を選択します。
  - リスト ボックスから [ FAT32 ] を選択します。
- ステップ 8** [ OK ] を選択します。
- ステップ 9** ボリュームのフォーマットを確認するプロンプトが表示されたら、もう一度 [ OK ] を選択します。
- 

### 次の手順

「既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード」(P.9)



# 既存インストール データの Cisco Unified Presence へのアップロード

## 開始する前に

次の条件に該当する場合は、Cisco Unified Presence 基本インストールの設定をここから開始します。

- 既存のインストール データを応答ファイルにアップロード済みである。
- サーバに Cisco Unified Presence がプレインストールされている。
- Cisco Unified Presence ソフトウェアのインストールを選択したが、設定は後で行うため、プラットフォームのインストール ウィザードのウィンドウで [Skip] を選択した。

## 手順

- ステップ 1** システムの再起動後、[Pre-existing Installation Configuration] ウィンドウが表示されます。
- Answer File Generator で生成された既存の設定情報がフロッピー ディスクか USB キーに格納されている場合は、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、[Continue] を選択します。インストール プロセス中に、設定情報がインストール ウィザードに読み取られます。
- ステップ 2** プラットフォームのインストール ウィザードで [Proceed] を選択します。
- ステップ 3** [Apply Additional Release] ウィンドウで、次のいずれかの操作を実行します。

目的	操作
アップグレードせずにソフトウェアをインストールする	a. [No] を選択します。
ソフトウェアの最新リリースにアップグレードする	a. [Yes] を選択します。 b. 追加リリースの適用に進みます。 <b>(注)</b> このアップグレード オプションの使用は推奨しません。このパッチ方式での Cisco Unified Presence の最新リリースへのアップグレードが必要になることはほとんどありません。アップグレードする場合は、このオプションを選択する前に、ソフトウェア イメージが DVD またはリモート サーバで利用できるかどうか確認してください。

- ステップ 4** [Basic Install] ウィンドウで [Continue] を選択します。

## 関連項目

- [付録 B 「Cisco Unified Presence ソフトウェアの最新リリースへのアップグレード」](#)

## 次の手順

[「基本インストールの設定」 \(P.4\)](#)

